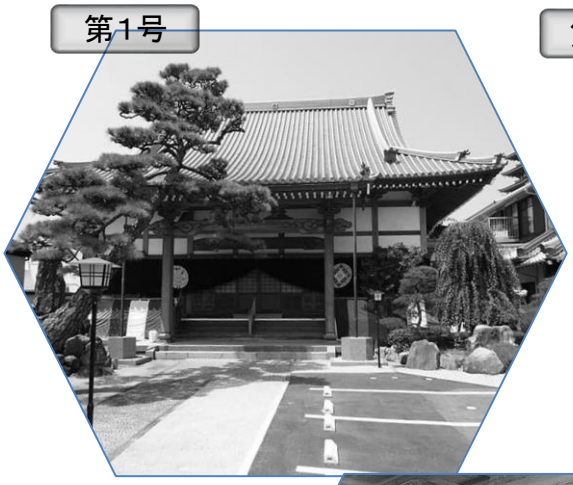
平成30年7月1日発行
第 5号

じょうけ

真宗大谷派 至徳山 浄慶寺

発刊一周年号

第1号



第3号

第4号

第2号

お盆に想うこと

浄慶寺責任役員　　山口 由利子

お盆が近付くと、今は亡き義母の姿が目に浮かびます。

明治生まれの母にとって本家の盆は、ご先祖さまに対して手の抜けない決まりや約束が沢山あって仏さまに、ゆっくり手を合わすひまもありませんでした。

嫁の私は、ほんの少し手伝いながらメモを取ったりしていたのですが・・・・・

やがて母を引き継ぐ事になりました。

お盆とは「真宗門徒として雑多な迷信的な事は、ぬぐい去り・・・亡くなった方々と静かに対峙し問いかけに出逢う事」との教えと我が家のギャップに戸惑いもあり、思い切って母に聞きました。

なんと、母はあっさり受け入れ、自身もほっとした様子でした。

それ以来、前日までにお仏壇の掃除を済ませ、切籠(きりこ、盆灯ろう)を下げて静かな、お盆を迎える様になりました。

亡き人を偲び送る事は、家族にとっても生き方のけじめの様で、日本の風習としても大切にしたいと思っています。

切子灯籠

体験談

大経（大無量寿経）に出あえて

浄慶寺坊守　大塚　麗

こんにちは、坊守です。私は現在、学んでいる九州大谷短期大学学長であり、仏教学科教授の三明智彰先生を講師に迎え、輪読会（仏教経典や解釈書をテキストにした学習会）を行っています。その中で教えていただいた内容についてご紹介したいと思います。

仏、阿難（あなん）につげたまわく、「汝、起ちて更に衣服（えぶく）を整え合掌恭敬（がっしょうくぎょう）して、無量寿仏を礼（れい）してたてまつるべし。十方国土（じっぽうこくど）の諸仏如来（しょぶつにょらい）、常に共にかの仏の無着無碍（むじゃくむげ）にましますを称揚（しょうよう）し讃歎（さんだん）したまう。」

ここに阿難（あなんた）起ちて衣服（えぶく）を整え、身を正しくし面（おもて）を西にして恭敬（くぎょう）し合掌して五体（ごたい）を地に投げて、無量寿仏（むりょうじゅぶつ）を礼したてまつりて白（もう）して言（もう）さく、「世尊（せそん）、願わくは、かの仏・安楽国土（あんらくこくど）およびもろもろの菩薩（ぼさつ）・声聞大衆（しょうもんだいしゅ）を見たてまつらん」と。

この語を説き已りて、すなわちの時に無量寿仏、大光明（だいこうみょう）を放（はな）ちて普（あまね）く一切諸仏の世界を照らしたまう。金剛囲山（こんごういせん）・須弥山王（しゅみせんのう）・大小の諸山（しょせん）、一切所有（いっさいしょう）みな同じく一色（いっしき）なり。

（・・・中略・・・）

この会（え）の四衆（ししゅ）、一時にことごとく見たてまつる。彼（かしこ）にしてこの土（つち）を見ること、またまたかくのごとし。

（『仏説無量寿経巻下』「真宗聖典」79頁～80頁）

この場面は『仏説無量寿経巻下』の終わりの方の説法の内容です。
釈尊の説法をずっと聞いてきて、疲れが衣服の乱れに表れてきた、お弟子の阿難尊者に向けて、釈尊が語りかける場面です。「阿難よ、立って衣服を整えて、合掌して礼拝しなさい。」と釈尊が言われます。
すると阿難は立って衣服を整え、姿勢を正し、西を見て合掌し、両手足と頭（五体）を地面につけて無量寿仏（阿弥陀仏）を礼拝しました。そして「釈尊、かの仏（阿弥陀仏）や安楽国土（極楽浄土）や、もろもろの菩薩や弟子たちを見せてください。」と願います。
この言葉が終わるとすぐに、無量寿仏（阿弥陀仏）が大きな大きな光を放ち、諸仏の世界を照らしました光が当たったところはすべて同じ色をしています。

（・・・中略・・・）

ここに集まっている人は皆、同じくして見ることができました。
また、彼（極楽浄土）からも、この土（娑婆）を同じくして見ることができました。
これは「極楽と娑婆が出会う場面」です。衣服を整え、姿勢を正し、合掌して帰命するとき、極楽浄土が見えたのです。
そして同じく、極楽国土からも、この娑婆が見えたそうです。合掌、礼拝するときにお互いが見える、お互いが出会うのです。
この場面の解説を聞いた時、本当に驚きました。逆をいえば、合掌、礼拝、帰命がなければ出会えないのです。そんなことが『大経』に書かれている事に驚きと感動でした。ご本尊に向かい「南無阿弥陀仏」をするその姿、姿勢はとても大切な「浄土と娑婆の出会いの一場面」なのだと感じました。

東本願寺・御影堂

真宗（大谷派・東本願寺）への導き

≪第五回≫

浄土真宗のお経について

お釈迦さまの説法を聞いた弟子の方がまとめられ伝えられたものがお経です。
お経には迷い苦しみを越えていく釈尊の教えが説かれています。
いわば釈尊からのメッセージが詰まっているのです。
ですから、お経を読むということは、本来は釈尊の教えに出遇うことなのです。
お経はどこまでも、私たちに対する呼びかけであるというのが大事な点です。
たとえば、親鸞聖人が真実の教と仰いだ『大無量寿経』には、次のような言葉があります。
「吉凶禍福（きっきょうかふく）、競（きそ）いておのおの之（これ）を作（な）す。一（ひとり）も怪しむものなきなり」
これは、吉凶や禍福にとらわれている人間の姿を教えようとする釈尊の言葉です。自分に都合の良いことばかりを追い求め、お互いに競い合い、しかも自分のしていることを正しいと信じ込んで怪しむこともない生き方が見据えられています。
日ごろは疑ったこともない自分の生き方を見つめ直すこと、これがお経との出遇いによって始まるのです。この意味で、お経は私たちの生き方を照らし出すものだといえます。
中国の善導大師は「経教（きょうきょう）はこれを喩（たと）うるに鏡の如し」と、お経は自分を映し出す鏡であると教えてくださっています。教えに照らして我が身のあり方を知るということが要めです。

出典：東本願寺資料

正依（しょうえ）の経典

三つの経典があり、浄土三部経といわれます。

●仏説無量寿経（大無量寿経・大経）
上下二巻からなり、阿弥陀仏の目的が記され、釈尊がこの世に出られた理由を明らかに説いてあり、「出世（しゅっせ）本懐（ほんがい）の経」といわれます。

●仏説観無量寿経（観経）
王妃、韋提希（いだいけ）夫人が深い悩み苦しみを経験するに至り、釈尊に救いを求めます。
それに応えて、釈尊が浄土往生のさまざまな方法として十六項目の教えを説かれています。

●仏説阿弥陀経（小経）
極楽浄土について、極楽と呼ばれるわけと極楽のありさまを説き阿弥陀仏や菩薩たちの徳が説かれ、その浄土に往生のためには、阿弥陀仏の名号を信じて唱えることのみによって往生できると説かれています。

※正依の経典⇒正しく依るべき経典。宗義の直接のよりどころとなる経典。

行事予定

●盂蘭盆会法要　8月13日(月)～15日(水)
3日間とも10時から

本堂開放　8月11日(土)～15日(水)
期間中、10時から17時まで

●秋の彼岸法要　9月23日(日)
13時30分から

●報恩講準備(おみがき)　11月12日(月)
10時から

●報恩講　11月17日(土)･18日(日)
両日とも13時30分から

文芸欄

川柳

山口由利子

巡り合う不思議地球の今生きる

哀しみを抱く赦しの形して

便利さに慣れてロボットめく暮し

口角を上げる体も軽くなる

※このコーナーに、川柳・短歌・俳句などを、お寄せください。

切り子灯籠

本紙一面の記事に記載されている「切り子灯籠」は、東・西本願寺の正式なお盆の提灯です。
ここ数年、お盆の時期に、本堂にて「切り子灯籠」のパンフレットを配布中です。
以前は高価でしたが、価格や大きさも、現在では豊富にバリエーションがあります。
(※切り子灯籠に関心のある方は住職までお問い合わせ下さい。)

編集後記

いよいよ暑い夏になってきます。
じょうけいの第五号の発行です。発刊から一年経ちました。
この一年を振り返ると予定通りに発行できるかと気ばかり先行していました。
今後とも愛読頂きまして投稿もよろしくお願いします。

じょうけい　第4号
≪発行≫
真宗大谷派 浄慶寺　大塚展彦
浄慶寺門徒会　川嶋正實
〒810-0063
福岡市中央区唐人町3-10-49
≪編集≫
浄慶寺寺報編集担当 塩川大一

山門再建ご懇志を、お願いします

先にご案内の通り、懸案でありました山門再建を進めていく為に皆様方のご協力を賜りたくご懇志をお願いしております。
お寺の顔でもあります山門が通る事も叶わない状態のままでは、門徒としても悲しいものがあります。
どうか門徒皆様方の力添えを、よろしくお願い申し上げます。
今年の一月から募集させて頂いておりますが、まだまだ建設資金足りない状況です。

当初計画では、平成31年の中ごろには完成予定ですが、ご懇志の状況によっては工事着工が遅れる事にも成りかねませどうか、皆様方のご協力を、重ねてお願い申し上げます。

お寺は
支え、支えられる
心のよりどころ

私たち門徒が護ってゆきましょう。

(世話人会一同)